

糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館



役場の文書

伝承館では、明治・大正・昭和初期に役場で作成された公文書を、およそ三千冊保管している。紙の色は茶色に変わり、所々虫に食われ、黒臭い匂いがする。手に取り開いて見るのも、何か気が引ける程であるが、その内容は、山形村百二十九年の歩みを物語る。

昨今の社会情勢の変化により、村の行く道を如何にするか、議論が賑やかい。村の歩みなど、あまり振り返られることもないが、これを知ることは、舵を切る上で参考になるに違いない。古ぼけた文書も、きっと役に立つだろう。

山形村のあゆみを如実に物語る役場文書

役場が作成する文書Ⅱ公文書には、村のあゆみに関する具体的な記述があり、公務遂行上必要な文書としての役割に加え、重要な歴史的資料もある。ここではその中でも当時を物語る興味深い文書を取り上げ紹介したい。なお掲載の写真中で、隠して撮影してある箇所は、個人情報保護の観点から行つたものである。

畜犬台帳

「大正五年 畜犬台帳」とある。なぜこの様な台帳が作成されたかと疑問に思つたが、調べてみたところ狂犬病予防対策であつた。

狂犬病は人間でも感染（主な感染ルートは犬と言われる）し、犬でも人間でも感染するとほぼ一〇〇%死に至る。苦しみもだえながら死に逝く様が見るに耐え難く、大変に恐れられた。特に時局の混乱期（戦争や震災）には、野犬の狂犬病が流行し、その対応が必要であつた。

畜犬台帳（左）とその内容（下）

「畜犬税」を、二九年に「獣疫予防法」を定め、狂犬病を法定伝染病とすることで行政的対応を強化した。まず飼犬の登録が実施され、登録の証として犬に鑑札が取り付けられた。またこれ等に要する費用として、「畜犬税」も徴収された。

以後予防接種の推進と野犬の捕獲が実施され、狂犬病流行は徐々に終息へ向かつた。そして昭和二十五年に

女子バレー国体出場

昭和二八年、我が村女子バレーボールチームが、県代表として晴れて国体に参加した。この年は農作物の作柄が思わしくなく、村内意消沈気味であつたが、明るい話題に村あげての応援であつたといふ。その際選手の遠征費用等を確保する為に、寄付が募られたが、その関連書類が残つている。

精算書によると、寄付金三六八五〇円、県交付金三万円、郡交付金八千円が遠征費用に充てられ、選手監督十五名が遠征している。遠征は五日間、会場は東京神宮外苑で、宿泊

「狂犬病予防法」が公布され、登録と鑑札所持、予防注射接種が義務付けられ、昭和三一年以降、狂犬病は日本から姿を消した。

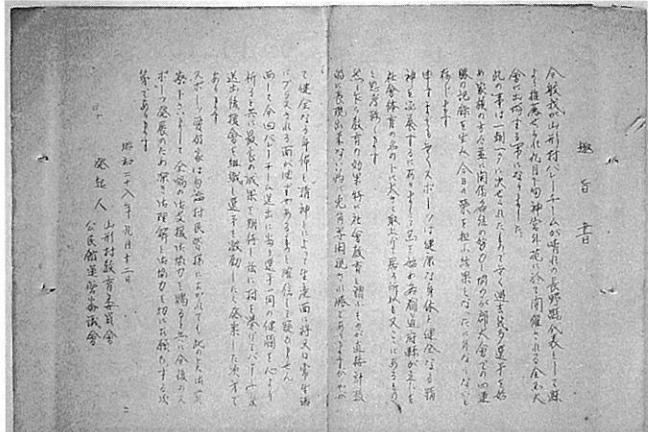
さてこの畜犬台帳には、飼主の氏名とともに、犬の呼名が記

されており、当時どの様な名前が流行つていたのか分かりおもしろい。「ボチ」等、お馴染みの名前があるほか、「ビス」・

「エス」・「ゴゾ」等、今では聞き慣れない名前もかなり多くあつた。また「ヒーロー」といつた當時としてはハイカラな名前も見られた。



寄付者名簿（上）と
寄付を募る趣旨書（右）



費が一人一泊五百円、往復列車代が一人九三六円、山形—松本間のバス代が片道四五円等、細かに記載されている。また、明治神宮・浅草観音・靖国神社にて戰勝祈願をしており、百円づつ御賽銭を出した事まで分かれおもしろい。ちなみに成績に関し

ては綴中に記載ないが、準々決勝敗退と当時の公民館報に載つてゐる。

村民練成大会

今年度で五五回を数えた村民運動会の第一回は、昭和二一か二二年らしいが、どちらか裏付ける文書は見つからない。しかしそれ以前の十八年に実施された、村民練成大会（運動会）に関する文書がある。これは現在の、社会体育の一環として行われている運動会とは違い、戦争にそ

なえた国民練成を目的としたものであります。

日程は、現在の運動会より遅い時期の十一月三日で、会場は小学校グラウンド、競技は四五種目もある。決死傳令、敵前渡河、ソレ空襲、暗夜ノ一撃、一億一心、武装競争等の種目名が見られ、戦時色を反映した名称となつてゐる。なお運動会の賞品は葉書であり、準備品リストに、五百枚と記されている。

戦時中であり、現在の運動会みたいな盛り上がりがあつたのは分からぬ。しかし採点表が綴つてあり、各地区対抗で行わた様なもので、熱が入つたには違いない。ちなみに獲得点数は、上大池三四点、中大池三五点、小坂三五点、下大池九点、上竹田三九点、下竹田四十点で、優勝は下竹田であつた。

営業税台帳

昭和初期に作成された税金の徴収台帳である。當時の産業・商業がどうであったのか把握できる。

二、三紹介してみたい。

唐沢地区にそば屋が多いのは、唐沢川を利用し

山形村民鉄成大会録成		備考
		昭和十八年十一月三日
一	（第1回）	
二	（第2回）	
三	（第3回）	
四	（第4回）	
五	（第5回）	
六	（第6回）	
七	（第7回）	
八	（第8回）	
九	（第9回）	
十	（第10回）	
十一	（第11回）	
十二	（第12回）	
十三	（第13回）	
十四	（第14回）	
十五	（第15回）	
十六	（第16回）	
十七	（第17回）	
十八	（第18回）	
十九	（第19回）	
二十	（第20回）	
二十一	（第21回）	
二十二	（第22回）	
二十三	（第23回）	
二十四	（第24回）	
二十五	（第25回）	
二十六	（第26回）	
二十七	（第27回）	
二十八	（第28回）	
二十九	（第29回）	
三十	（第30回）	
三十一	（第31回）	
三十二	（第32回）	
三十三	（第33回）	
三十四	（第34回）	
三十五	（第35回）	
三十六	（第36回）	
三十七	（第37回）	
三十八	（第38回）	
三十九	（第39回）	
四十	（第40回）	
四十一	（第41回）	
四十二	（第42回）	
四十三	（第43回）	
四十四	（第44回）	
四十五	（第45回）	
四十六	（第46回）	
四十七	（第47回）	
四十八	（第48回）	
四十九	（第49回）	
五十	（第50回）	
五十一	（第51回）	
五十二	（第52回）	
五十三	（第53回）	
五十四	（第54回）	
五十五	（第55回）	
五十六	（第56回）	
五十七	（第57回）	
五十八	（第58回）	
五十九	（第59回）	
六十	（第60回）	
六十一	（第61回）	
六十二	（第62回）	
六十三	（第63回）	
六十四	（第64回）	
六十五	（第65回）	
六十六	（第66回）	
六十七	（第67回）	
六十八	（第68回）	
六十九	（第69回）	
七十	（第70回）	
七十一	（第71回）	
七十二	（第72回）	
七十三	（第73回）	
七十四	（第74回）	
七十五	（第75回）	
七十六	（第76回）	
七十七	（第77回）	
七十八	（第78回）	
七十九	（第79回）	
八十	（第80回）	
八十一	（第81回）	
八十二	（第82回）	
八十三	（第83回）	
八十四	（第84回）	
八十五	（第85回）	
八十六	（第86回）	
八十七	（第87回）	
八十八	（第88回）	
八十九	（第89回）	
九十	（第90回）	
九十一	（第91回）	
九十二	（第92回）	
九十三	（第93回）	
九十四	（第94回）	
九十五	（第95回）	
九十六	（第96回）	
九十七	（第97回）	
九十八	（第98回）	
九十九	（第99回）	
一百	（第100回）	

営業税台帳

登録番号	登録年月日	登録者名	税額		内課税額		登録料
			税額	内課税額	税額	内課税額	
1	昭和12年1月1日	山形県農業試験場	2,200	1,200	2,200	1,200	
2	昭和12年2月1日	山形県農業試験場	1,400	700	1,400	700	
3	昭和12年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
4	昭和12年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
5	昭和12年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
6	昭和12年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
7	昭和12年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
8	昭和12年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
9	昭和12年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
10	昭和12年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
11	昭和12年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
12	昭和12年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
13	昭和13年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
14	昭和13年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
15	昭和13年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
16	昭和13年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
17	昭和13年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
18	昭和13年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
19	昭和13年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
20	昭和13年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
21	昭和13年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
22	昭和13年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
23	昭和13年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
24	昭和13年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
25	昭和14年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
26	昭和14年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
27	昭和14年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
28	昭和14年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
29	昭和14年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
30	昭和14年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
31	昭和14年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
32	昭和14年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
33	昭和14年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
34	昭和14年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
35	昭和14年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
36	昭和14年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
37	昭和15年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
38	昭和15年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
39	昭和15年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
40	昭和15年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
41	昭和15年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
42	昭和15年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
43	昭和15年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
44	昭和15年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
45	昭和15年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
46	昭和15年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
47	昭和15年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
48	昭和15年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
49	昭和16年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
50	昭和16年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
51	昭和16年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
52	昭和16年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
53	昭和16年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
54	昭和16年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
55	昭和16年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
56	昭和16年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
57	昭和16年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
58	昭和16年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
59	昭和16年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
60	昭和16年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
61	昭和17年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
62	昭和17年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
63	昭和17年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
64	昭和17年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
65	昭和17年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
66	昭和17年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
67	昭和17年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
68	昭和17年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
69	昭和17年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
70	昭和17年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
71	昭和17年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
72	昭和17年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
73	昭和18年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
74	昭和18年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
75	昭和18年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
76	昭和18年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
77	昭和18年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
78	昭和18年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
79	昭和18年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
80	昭和18年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
81	昭和18年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
82	昭和18年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
83	昭和18年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
84	昭和18年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
85	昭和19年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
86	昭和19年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
87	昭和19年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
88	昭和19年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
89	昭和19年5月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
90	昭和19年6月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
91	昭和19年7月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
92	昭和19年8月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
93	昭和19年9月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
94	昭和19年10月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
95	昭和19年11月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
96	昭和19年12月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
97	昭和20年1月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
98	昭和20年2月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
99	昭和20年3月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	
100	昭和20年4月1日	山形県農業試験場	1,120	560	1,120	560	

営業税台帳	

<tbl_r cells="2" ix="4" maxcspan="1

公文書の保存



▲ 整理され中性紙保管箱に納められた役場の書類

役場で書類を作成しているのは、業務上必要だからである。また昨今は、情報公開制度に基づき、住民への説明責任を果たす時に、元になる資料としての意味が加わり、制度も整備された。そしてもうひとつ、歴史的価値も考えられる様になつてきただのである。役場で作成している書類は、その地域に密着した内容を扱つてゐる為、地域の歩みを知る上で欠かすことのできない資料ということである。

ふるさと伝承館に収蔵されている書類は、村誌編纂作業の際整理され

た、明治期を中心とした書類（千六百簿冊程）と、この度整理に着手した昭和二十年代迄の書類（千三百簿冊余）がある。実を言うと恥ずかしながら、この度整理に着手した書類は、先述の意義を踏まえて保存されなかったものではない。昭和六年に役場庁舎が移転し、旧庁舎が伝承館になつたのであるが、この際引越しされなかつた書類が、そのまま残つていたのである。ゆえに倉庫に堆く積み重ねられ、埃を被り、虫食いも目立ちはじめていた。昨今公文書の歴史的価値が、認識される様になつてきたのに加え、このままでは書類が駄目になつてしまふとの危惧から、

この度整理を始めたのである。
さて書類の内容であるが、当然役場業務全般にわたっている。山形村は明治七年の開村以来、合併を経験していない為、書類が散逸する機会が少なく、比較的残存状況が良いと思われる。当然個人情報に関する書類も多いゆえ、扱いの際にはプライバシーの保護といった配慮に慎重を期さねばならないが、所有している情報量は非常に多いし、生活に密着している。それだけに、村の歩みを如実に物語るのである。

しかししながら全国的に見ても、役場等の公文書を、歴史資料として保存する意識は、高いとは言えない。古い書類であれば、保存しておくことを思いつくだろうが、比較的新しい書類は、何の思慮も無く捨てられる傾向が強いと思われる。新しいからと捨ててしまえば、数十年後に何も分からぬという状況にもなり得る。現実に三十年程前のことですら、

詳細は何も分からぬといつたことは既に生じている。伝承館で収蔵していない新しい時期の書類は、業務上必要なため役場にて保管しているが、歴史的観点からの保存を前提にしないし、そうした取り決めもない。役場作成の書類すべてを対象にせねばならない。失われた書類は、二度と戻らないのである。

伝承館事業報告

平成十四年十月十九日には、歴史講演会「普選の父 中村太八郎」を開催しました。講師に中京短期大学

平成十四年十一月二・三日には、歴史

改選になりました。選出された方々

は以下の通りで、任期は二年六ヶ月です。

瀬川 光行 (上大池)
上條 利昭 (中大池)
中川 美穂 (小坂・館長兼務)
百瀬 貞子 (小坂)
高木 和子 (小坂)
唐沢 永子 (上竹田)
村上登志水 (下竹田・委員長)
鈴木 利喜 (下竹田)

ふるさと伝承館運営審議会委員が特別展「三夜塚遺跡出土品展」が開催されました。一昨年に実施された発掘調査の出土品を展示し、当時の生活ぶりを振り返りました。

平成十四年十一月二・三日には、特別展「三夜塚遺跡出土品展」が開催されました。一昨年に実施された発掘調査の出土品を展示し、当時の生活ぶりを振り返りました。